

| | | |
|------------------|---------------|-------------------------------|
| 授業科目名 | 1 単位 (0-2) | 担当教員 |
| 音楽Ⅰ (Music I) | | 大山伸子・糸洲のぶ子・神谷智子 古謝麻耶子・津田涼子 |

授業の到達目標及びテーマ：保育者として必要な音楽の基礎的技術（ピアノ・楽典・ソルフェージュ）を習得し、課題曲の終了を目指す。保育現場で音楽の能力が発揮できるよう自己研鑽する。

授業の概要：幼児の音楽的感性を育てるために、保育者として必要な音楽の基礎技能を修得する。ピアノ奏法と、楽典やソルフェージュなど基礎的な学習と運動して、ピアノの演奏能力の向上をはかる。授業形態は、一斉指導と個別指導を導入し、「教則本」では運指法、読譜等の初歩的なスキルを獲得しながら、簡単な童謡やマーチを弾けるようにする。また、「音楽Ⅱ」に継続して学習できるように、基本的な音楽理論の理解とピアノ奏法の習熟を目指す（授業は予習型）。

予習：毎時間与えられた課題曲を次の授業までに練習して臨むこと。

復習：合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。

授業計画

1. 課題

(1) 楽典 ①音域 ②音程 ③音階 ④調と調号 ⑤和音

(2) ピアノ課題曲 ①基礎 教則本『大学ピアノ教本』No65程度 必修課題曲

No 1、3、4、5、9、11、13、17、21、24、25、27、30、32、33、37、40、43、45、49、51、53、56、60、63、65、他任意の曲

②幼児曲 必修課題曲（とんぼのめがね・思い出のアルバム）

③マーチ 必修課題曲（かけあしマーチ・手をたたきましょう・ビーマーチ）

④讃美歌 必修課題曲（誰が作ったの）等

⑤任意の曲

2. 授業計画

| | |
|------|--|
| 第1回： | オリエンテーション及びピアノ奏法のウォーミングアップ |
| 第2回： | 『大学ピアノ教本』 No.1～4 (No.1～37) はグルーブレッスンで進める |
| 第3回： | No.5、9、11、及びへ長調の音階（1オクターヴ）、調名、1度、5度の和音（I、V） |
| 第4回： | No.13、17、21、及び属7度の和音（V ₇ ） |
| 第5回： | No.24、25、及び4度の和音（IV） |
| 第6回： | No.27、30、32、及びへ長調の音階、調名（1オクターヴ）、及び1度、4、5、属7度の和音（I、IV、V、V ₇ ） |
| 第7回： | No.33、37、及びト長調の音階、二長調の音階（1オクターヴ）及び調名 |
| 第8回： | No.40～（No.40～No.65）は個人レッスン（学生の習熟度によって課題達成曲が異なる）音階・調名（ハ・ヘ・ト・ニ）、及び和音（I・IV・V・V ₇ ）のまとめ |

| | |
|-------|--|
| 第9回： | No.40～（No.40～No.65）個人レッスン、及びとんぼのめがね(幼児曲) |
| 第10回： | No.40～（No.40～No.65）、ビーマーチ（個人により曲の進捗が異なる） |
| 第11回： | No.40～（No.40～No.65）、思い出のアルバム(幼児曲)（個人により曲の進捗が異なる） |
| 第12回： | No.40～（No.40～No.65）、かけあしマーチ（個人により曲の進捗が異なる） |
| 第13回： | No.40～（No.40～No.65）、手をたたきましょう（個人により曲の進捗が異なる） |
| 第14回： | 讃美歌（誰が作ったの）、任意の曲 |
| 第15回： | 『大学ピアノ教本』、童謡、マーチ、讃美歌、任意の曲のまとめ |
| 第16回： | 定期試験 |

テキスト：

- ・ 大学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社
- ・ 一宮道子編『ピアノマーチ集』全音楽譜出版社
- ・ 『新・幼児の音楽教育』朝日出版社
- ・ コピー資料

評価方法・評価基準：①授業への参加度 ②授業態度 ③実技テスト ④楽典の簡単な筆記テスト。

※上記①～④を総合的に勘案して評価。

| 到達目標等 | 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 | その他 | 評価割合(%) |
|-------------------------|-------|-------|-------|----|-------|-----|---------|
| 成績評価 試験 (中間・期末試験) | | | | | ○ | | 20 |
| 小テスト・ 授業内レポート | | | | | ○ | | 20 |
| 授業態度 | | | ○ | ○ | | | 20 |
| 受講者の発表 | | | | | ○ | | 10 |
| 演習 | ○ | | | | ○ | | 30 |

履修上の注意：

毎時間レッスンカード票に自己の受講状況や進捗を記録し提出する。毎時間与えられた課題曲を事前レッスン(自己学習)して授業に臨むこと。

授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが最善の上達方法であることを認識する。

| | | |
|-------------------|---------------|-------------------------------|
| 授業科目名 | 1 単位 (0-2) | 担当教員 |
| 音楽Ⅱ (Music II) | | 大山伸子・糸洲のぶ子・神谷智子 古謝麻耶子・津田涼子 |

授業の到達目標及びテーマ：音楽Ⅰで習得した学習成果を踏まえ、保育現場で活用度の高い、幼児曲やマーチ曲がスムーズに演奏できるスキルと表現法を修得する。

授業の概要：「音楽Ⅰ」の基礎的な学習を踏まえ、幼児教育現場で活用度の高い童謡やマーチ等の幼児曲を中心に学習する。『大学ピアノ教本』の学習は、読譜力や奏法の技術がさらに高められ、童謡、マーチの学習は幼稚園、保育所における生活の歌、季節や行事の歌、遊び歌など、保育現場で役立つ幼児曲の弾き歌いが数多くできるようになる。

授業形態は、習熟度に応じ個別指導を主として、予習型（自己学習）とする。

予習：毎時間与えられた課題曲を次の授業までに練習して臨むこと。

復習：合格をもらった課題曲でも、怠りなく復習すること。

授 業 計 画

1. 課題

(1) 楽典 ①移調譜 ②移調奏 ③和音 ④音階 ⑤調と調号 ⑥その他

(2) ピアノ課題曲 ①基礎 教則本『大学ピアノ教本』No.66~94 のうち 11 曲程度

No.66、67、68、70、71、74、75、79、81、93、94、他 任意

②幼児曲 必修課題曲(おはようのうた・おかえりのうた・たんじょう日・たなばたさま・はをみがきましょう)

③マーチ曲 必修課題曲(おお牧場はみどり・ブルーセス マーチ)

④讚美歌(お星がひかる)・任意の曲等

2. 授業計画

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 第 1 回： | オリエンテーション（個別レッスンなので習熟度によって進度が異なる） |
| 第 2 回： | 『大学ピアノ教本』No.66~94 (進度による課題曲) |
| 第 3 回： | No.67、幼児曲「おはようのうた」（幼児曲は順不同・達成度別の進度） |
| 第 4 回： | No.68、「おかえりのうた」 |
| 第 5 回： | No.70、「たんじょう日」 |
| 第 6 回： | No.71、「たなばたさま」 |
| 第 7 回： | No.74、「はをみがきましょう」 |
| 第 8 回： | No.75、マーチ「おお牧場はみどり」（マーチは順不同・達成度別の進度） |

| | |
|---------|---------------------------------|
| 第 9 回： | No.79、「ブルーセスマーチ」 |
| 第 10 回： | No.81、讚美歌「お星がひかる」 |
| 第 11 回： | No.93、「かたつむり」（任意の曲） |
| 第 12 回： | No.94、任意の曲（幼児曲・マーチ） |
| 第 13 回： | 任意の曲（幼児曲・マーチ） |
| 第 14 回： | 任意の曲（幼児曲・マーチ） |
| 第 15 回： | 任意の曲、(大学ピアノ教本・幼児曲・マーチ)、及び全体のまとめ |
| 第 16 回： | 定期試験 |

※『大学ピアノ教本』は目安であり、進度は習熟度別

テキスト：・学音楽教育研究グループ編著『大学ピアノ教本』教育芸術社 ・一宮道子編『ピアノマーチ』教育芸術社
・『新・幼児の音楽教育』朝日出版社 ・コピー資料

評価方法・評価基準：①授業への参加度 ②授業態度 ③ピアノ実技テスト、①～③を総合的に評価する。

| 成績評価 | 到達目標等 | 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 | その他 | 評価割合(%) |
|------------------|-------|-------|-------|-------|----|-------|-----|---------|
| 試験 (中間・期末試験) | | | | | | ○ | | 20 |
| 小テスト・ 授業内レポート | | | | | | ○ | | 20 |
| 授業態度 | | | | ○ | ○ | | | 20 |
| 受講者の発表 | | | | | | ○ | | 10 |
| 演 習 | ○ | | | | | ○ | | 30 |

履修上の注意：

毎時間、レッスンカード票に自己の授業状況や進度を記録し提出する

毎時間与えられた課題曲を、事前レッスン（自己学習）して、授業に臨むこと

授業は怠りなく出席し、事前に学習した曲の指導を受ける。日々の練習の積み重ねが上達方法であることを認識する

| | | |
|---------------------------------------|---------------|--------|
| 授業科目名 | 1 単位 (0-2) | 担当教員 |
| 図画工作 I (Art and Craft Education I) | | 佐久本 邦華 |

授業の到達目標及びテーマ

図画工作 I では身近な自然や物の色や形、感触に親しむ経験をする事が大きな目標となる。日用品から食材まで子どもを取り巻く様々なマテリアルに加え、地域の民芸品や工芸品に使われた自然素材に実際に触れ、扱うことによって、身近な素材を体験・経験し、素材の特性に対し理解を深める。さらに、それらを幼児教育の場で活かせるよう活動案を提案する。

授業の概要

子どもの表現を理解し、指導する上で必要な基本的感性や表現力を、様々な造形作品の制作と鑑賞を通じて身につける。様々な素材・教材や用具の特性を理解し、保育士・幼稚園教諭としての実技的スキルの向上を目的とし、子どもたちの生活環境を取り入れた具体的な図画工作の活動案の提案を中心とする。

予習：レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。

復習：授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。

授 業 計 画

| | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| 第 1 回： オリエンテーション-図画工作 I の目的と内容について- | 第 9 回： 沖縄の植物から色をとる-葉より |
| 第 2 回： 表現の発達段階（復習）にそった造形あそびの実習における展開 | 第 10 回： 沖縄の植物から色をとる-樹皮より |
| 第 3 回： 紙を使用した表現活動とその展開 | 第 11 回： 沖縄の植物から繊維をとる-糸 |
| 第 4 回： 水や氷、お湯（物質変化による造形）による表現活動とその展開 | 第 12 回： 沖縄の植物から繊維をとる-紙 |
| 第 5 回： 食材を使用した表現活動とその展開 | 第 13 回： 沖縄の土で遊ぶ・染める |
| 第 6 回： 動きの観点からの簡単な玩具作り | 第 14 回： 実習時の活動案の検討と保育指導案の具体例案考察 |
| 第 7 回： 風の観点からの簡単な玩具作り | 第 15 回： 実習時の活動案の検討と保育指導案の具体例発表 |
| 第 8 回： 色の観点からの簡単な玩具作り | |

テキスト： テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布

参 考 書：福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアート—プロジェクトアプローチの実践から—』（小学館, 2015）、槇英子『保育をひらく造形表現』（萌文書林, 2011）、平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容「表現」』（ミネルヴァ書房, 2015）、無藤隆監修・浜口順子編者代表『領域表現—事例で学ぶ保育内容—』（萌文書林, 2010）

評価方法・評価基準：演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。

| 到達目標等 | 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 | その他 | 評価割合 (%) |
|-------------------------|-------|-------|-------|----|-------|-----|----------|
| 成績評価 試験 (中間・期末試験) | | | | | | | 0 |
| 授業内レポート | ○ | | | | | | 10 |
| 演習・小作品 | | ○ | | | | | 40 |
| 最終作品 | | | | | ○ | | 20 |
| 鑑賞・発表 | | | ○ | | | | 20 |
| 授業態度 | | | | ○ | | | 10 |
| 合計 | | | | | | | 100 |

履修上の注意：演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します

| | | |
|---------------------------------------|---------------|--------|
| 授業科目名 | 1 単位 (0-2) | 担当教員 |
| 図画工作Ⅱ (Art and Craft Education II) | | 佐久本 邦華 |

授業の到達目標及びテーマ

主にグループでの共同制作活動を体験することで、子どもの特性の一つである「みたて」のイマジナリーな側面への理解を深める。また、子どもの遊びを豊かにし、子どもたちの感性やイメージを刺激し、彼らの体験と経験を表現へと繋げるような造形表現活動の展開、および環境構成について考える。

授業の概要

図画工作Ⅰの基礎的な活動をふまえ、図画工作Ⅱでは、子どもたちの「みたて活動」を活発にするような共同制作について考え、提案し、取り組む。また現場において、四季や地域の行事などの地域環境に根差した教材の取り入れ方を考える。予習：レジュメを事前によく読み、次回講義内容についての知識を確認しておくこと。

復習：授業時に配布された資料やレジュメをよく読み、講義の内容を応用できるよう努めること。講義時間内で完成できなかった制作物について、次回までに仕上げるよう努めること。

授 業 計 画

| | |
|--------------------------------------|------------------------------------|
| 第 1 回： オリエンテーション -図画工作Ⅱの目的と内容について- | 第 9 回： 行事の視覚伝達 -光と影を楽しむ- |
| 第 2 回： 「みたて」による立体表現(1) -雑材の収集とその造形性- | 第 10 回： 行事の視覚伝達 -光と影のクリスマスの壁面作り- |
| 第 3 回： 「みたて」による立体表現(2) -制作活動- | 第 11 回： 行事の視覚伝達 -光と影のクリスマスの壁面作り- |
| 第 4 回： 「みたて」による立体表現(3) -制作活動および提出- | 第 12 回： 日常を「異化」する表現活動(1) -異化とはなにか- |
| 第 5 回： 「みたて」共同制作 -その意義と特性- | 第 13 回： 日常を「異化」する表現活動(2) -グループ制作- |
| 第 6 回： 「みたて」共同制作 -グループで長い紙に描く実践- (1) | 第 14 回： 日常を「異化」する表現活動(2) -グループ制作- |
| 第 7 回： 「みたて」共同制作 -グループで空間を飾る実践- (2) | 第 15 回： 日常を「異化」する表現活動(2) -グループ発表- |
| 第 8 回： 「みたて」共同制作 -グループで空間を飾る実践- (3) | |

テキスト： テキストは使用せず、毎回の演習時にプリントを作成して配布

参 考 書： 福田泰雅・磯部錦司著『保育のなかのアート—プロジェクトアプローチの実践から—』(小学館, 2015)、榎英子『保育をひらく造形表現』(萌文書林, 2011)、平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容「表現」』(ミネルヴァ書房, 2015)、無藤隆監修・浜口順子編者代表『領域表現—事例で学ぶ保育内容—』(萌文書林, 2010)

評価方法・評価基準： 演習で制作した作品、それに係る発表、および小レポートや授業態度を総合し評価。

| 到達目標等 | 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 | その他 | 評価割合(%) |
|-------------------------|-------|-------|-------|----|-------|-----|---------|
| 成績評価 試験 (中間・期末試験) | | | | | | | 0 |
| 授業内レポート | ○ | | | | | | 10 |
| 演習・小作品 | | ○ | | | | | 40 |
| 最終作品 | | | | | ○ | | 20 |
| 鑑賞・発表 | | | ○ | | | | 20 |
| 授業態度 | | | | ○ | | | 10 |
| 合計 | | | | | | | 100 |

履修上の注意： 演習ですので、各自で準備物が必要です。詳しくはオリエンテーション時に説明します

| | | |
|---------------------------------------|---------------|--------|
| 授業科目名 | 1 単位 (0-2) | 担当教員 |
| 幼児体育 I (Gymnastics for Children I) | | 山城 眞紀子 |

授業の到達目標及びテーマ

幼児期にふさわしい運動遊びの実際を通して、子ども理解を図り、保育者の役割を学ぶ。

授業の概要

指導案を作成し模擬保育の方法を中心に、運動遊びの教材や環境の構成、展開の方法、指導上の留意点を学習する。

予習：授業計画に沿った運動遊びの教材の意義や特性等について学習し、体調を整え授業に備える。

復習：授業内容を通して、子ども理解や保育者の役割について振り返る。

授 業 計 画

| | |
|--|---------------------------------------|
| 第 1 回： 学習計画・幼児期の運動特性、指導案作成と分担 | 第 9 回： ラジオ体操、はとぽっぽ体操、他 |
| 第 2 回： ・保育者に必要な力「体力」 ・集団行動 ・フォークダンスの基本ステップ | 第 10 回： ボール遊び |
| 第 3 回： フォークダンス | 第 11 回： なわ遊び |
| 第 4 回： 鬼ごっこ・ルール遊び（1） | 第 12 回： かけっこ遊び、とびっこ遊び |
| 第 5 回： 鬼ごっこ・ルール遊び（2） | 第 13 回： 大型遊具遊び（1）（マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台） |
| 第 6 回： 体操遊び、カくらべ遊び、 | 第 14 回： 大型遊具遊び（2）（マット、跳び箱、平均台、鉄棒、巧技台） |
| 第 7 回： 身近な素材で運動遊び | 第 15 回： 遊具でごっこ遊び・まとめ |
| 第 8 回： ストーリーゲーム (お話から運動遊びへ) | |

※都合により内容や順序を変更することがある。

テキスト： 特に指定しない 随時資料を配布。

参 考 書： 幼児期運動指針ガイドブック（文部科学省：幼児期運動指針策定委員会）

評価方法・評価基準： 授業への参加度、課題発表、実技テスト、レポートなどを総合して行う。

| 到達目標等 | 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 | その他 | 評価割合 (%) |
|-------------------------|-------|-------|-------|----|-------|-----|----------|
| 成績評価 試験 (中間・期末試験) | | | | | | | |
| 小テスト・ 授業内レポート | ○ | | | | | | 20 |
| 授業態度 | | | ○ | ○ | ○ | | 50 |
| 受講者の発表 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | 30 |
| 演 習 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

履修上の注意： 服装、安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。

| | | |
|---------------------------------------|---------------|--------|
| 授業科目名 | 1 単位 (0-2) | 担当教員 |
| 幼児体育Ⅱ (Gymnastics for Children II) | | 山城 眞紀子 |

授業の到達目標及びテーマ

保育者としての基本的運動技能の習得を目指しつつ、遊具の特性における補助法や安全、そして戸外で積極的に遊ぶ意義や方法を理解する。
心や体で感じたことを自分の感情の趣くままに体で動いて表現を行う子どもたちの身体表現についての指導の内容や方法について理解する。

授業の概要

大型移動遊具の基礎技能の習得、補助法や安全について学ぶ。
戸外の環境を活用する運動遊びについて実際に企画し、展開する。
いろいろな動きの体験、歌やリズムののって動いたり、作品のまとめ方など基礎的な知識や技能を習得する。
予習：授業計画に沿った課題について、資料等に目を通し、体調を整え授業に臨む。
復習：授業内容を通して、指導技術を高める工夫の観点から振り返りを行う。

授 業 計 画

| | |
|------|---------------------------------------|
| 第1回： | 学習計画、実習を通しての幼児の運動と環境 保育者に必要な力「表現力」 |
| 第2回： | 課題研究① ジャンケン遊び |
| 第3回： | 課題研究② なわ遊び |
| 第4回： | 課題研究③ お手玉遊び |
| 第5回： | 歩け歩け園外保育の企画と展開 |
| 第6回： | 公園でミニ運動会の企画と展開 |
| 第7回： | わらべ歌で遊ぼう |
| 第8回： | 伝承遊びで遊ぼう (1) トランポリン (1) |

| | |
|-------|------------------------------------|
| 第9回： | 伝承遊びで遊ぼう (2) トランポリン (2) |
| 第10回： | 沖縄のリズムと動きで遊ぼう |
| 第11回： | 身体表現で遊ぼう (1) 幼児の身体表現 (0歳から6歳まで) |
| 第12回： | 身体表現で遊ぼう (2) |
| 第13回： | 作品づくり (1) |
| 第14回： | 作品づくり (2) |
| 第15回： | 作品づくり (3)・まとめ |

* 都合により、内容や順序を変更することがある。

テキスト： 特に指定しない。 随時資料配布。ビデオ・DVD教材。

参 考 書： 幼児期運動指針ガイドブック (文部科学省：幼児期運動指針策定委員会)

評価方法・評価基準： 授業への参加度、発表、実技テスト、レポートなどを総合して行う。

| 到達目標等 | 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 | その他 | 評価割合 (%) |
|-------------------------|-------|-------|-------|----|-------|-----|----------|
| 成績評価 試験 (中間・期末試験) | | | | | | | |
| 小テスト・ 授業内レポート | ○ | | | | | | 20 |
| 授業態度 | | | ○ | ○ | ○ | | 50 |
| 受講者の発表 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | 30 |
| 演 習 | | | | | | | |
| その他 | | | | | | | |

履修上の注意： 服装、安全、授業内容にかかる準備・片付けに留意すること。

| | | |
|-----------------------|---------------|-----------|
| 授業科目名 | 1 単位 (0-2) | 担当教員 |
| 幼児の生活 (Life Skill) | | 島袋浩子・照屋建太 |

授業の到達目標及びテーマ

『私達の暮しと保育』を考え、社会人として、保育者としてのマナーを身につける。さらに、子どもの生活習慣の自立について学ぶ。知識理解として幼児期の基本的な生活習慣について理解する。乳幼児期の発達と生活技能について関心を持つ。また、自らの生活を振り返り、自身の資質を高める。

授業の概要

子ども自身が、人間として生きる力の基礎を育むための指導者としての在り方を学ぶ。社会人としてのマナー・保育者としての技能・子どもの生活技能などについて理論や実技等事例を通して学んでいく。

予習：講義前に予告したテキスト部分を読み、理解しておく。

復習：講義の中で話した内容や実践を復習し、理解をさらに深めること。

授 業 計 画

| |
|------------------------------------|
| 第 1 回： 講義概要説明 |
| 第 2 回： 乳幼児期の子どもの生活「基本的生活習慣」①食事の習慣 |
| 第 3 回： 乳幼児期の子どもの生活「基本的生活習慣」②睡眠の習慣 |
| 第 4 回： 乳幼児期の子どもの生活「基本的生活習慣」③排泄の習慣 |
| 第 5 回： 乳幼児期の子どもの生活「基本的生活習慣」④着脱衣の習慣 |
| 第 6 回： 乳幼児期の子どもの生活「基本的生活習慣」⑤清潔の習慣 |
| 第 7 回： 乳幼児期の子どもの生活「社会的生活習慣」 |
| 第 8 回： 常識マナー・保育現場での心構え |

| |
|-----------------------|
| 第 9 回： はさみや箸の持ち方等 |
| 第 10 回： 課題発表 |
| 第 11 回： 園だより・学級だよりの作成 |
| 第 12 回： 折り紙の魅力について |
| 第 13 回： 廃品を利用した製作① |
| 第 14 回： 廃品を利用した製作② |
| 第 15 回： 伝承遊び |
| 第 16 回： まとめ・講義内試験 |

テキスト：谷田貝公昭 監修『6歳までのしつけと子どもの自立』合同出版

参 考 書：厚生労働省「保育所保育指針」、文部科学省「幼稚園教育要領」
その他、必要に応じて紹介する。

評価方法・評価基準： 評価は、提出物、レポート等で行う。

| 到達目標等 | 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 | その他 | 評価割合(%) |
|------------------|-------|-------|-------|----|-------|-----|---------|
| 試験 (中間・期末試験) | ○ | ○ | | | | | 40 |
| 小テスト・ 授業内レポート | ○ | ○ | | | ○ | | 30 |
| 授業態度 | | | ○ | ○ | | | 15 |
| 受講者の発表 | | | ○ | ○ | | | 5 |
| 演 習 | ○ | | ○ | | ○ | | 10 |
| その他 | | | | | | | |

履修上の注意：課題の提出については、様式と期限を守ること。

| | | |
|-------------------------------|---------------|-------|
| 授業科目名 | 1 単位 (0-2) | 担当教員 |
| 飼育栽培 (Feeding and Growing) | | 照屋 建太 |

授業の到達目標及びテーマ

この講義では、飼育や栽培を通して、自然と親しみ、生き物の「命」の大切さについて学ぶ。近年、保育活動の中で日常化されている飼育や栽培の基本について学び、実践し習得する。また、生き物の「命」に対する責任感を持つ。

授業の概要

“生命”への慈しみを育てる保育が強調される中、保育者は小動物・植物への関わりが十分とは言えない。また、生き物を育てる“場”が減り、子どもたちは生物の命の尊さを知る機会が少なくなっている。そこで、実際に生き物の飼育活動を行う。

予習：グループで飼育や栽培する生き物についてしっかり調べ、わからないことは講義内に質問する。

復習：生き物の飼育や栽培をしっかり行う。観察し、ファイルに記録する。

授 業 計 画

| | | | |
|--------|------------------------|---------|---------------|
| 第 1 回： | 講義概要説明 グループ分け | 第 9 回： | 飼育栽培活動⑤ |
| 第 2 回： | 基礎学習①（植物）、 レポートの書き方 | 第 10 回： | 飼育栽培活動⑥ |
| 第 3 回： | 飼育栽培実習① | 第 11 回： | 基礎学習④（土壌） |
| 第 4 回： | 飼育栽培実習② | 第 12 回： | レポート作成① |
| 第 5 回： | 基礎学習②（動物） | 第 13 回： | レポート作成② |
| 第 6 回： | 飼育栽培実習③ | 第 14 回： | レポート作成③ |
| 第 7 回： | 飼育栽培実習④ | 第 15 回： | レポート提出とグループ発表 |
| 第 8 回： | 基礎学習③（気象） | | |

テキスト：沖縄生物教育研究会編『フィールドガイド沖縄の生きものたち 改訂版』新星出版
その他、必要に応じてプリントを配る。

参考書：岡田 要 監修『完全図解 生きものの飼ひ方全書』東陽出版
有沢 重雄『飼育栽培図鑑 はじめて育てる・自分で育てる』福音館書店
その他、必要に応じて紹介する。

評価方法・評価基準：評価は、レポートとグループ発表で行う。

| 到達目標等 | 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 | その他 | 評価割合(%) |
|-------------------------|-------|-------|-------|----|-------|-----|---------|
| 成績評価 試験 (中間・期末試験) | | | | | | | |
| 小テスト・ 授業内レポート | ○ | ○ | | | | | 15 |
| 授業態度 | | | ○ | ○ | | | 40 |
| 受講者の発表 | ○ | ○ | ○ | | ○ | | 15 |
| 演 習 | | | | ○ | | | 30 |

履修上の注意：講義には汚れても良い服装、動きやすい服装で参加すること。

レポートは、様式と期限を必ず守ること。遅れた場合は、受け取らない。

休暇期間もグループで責任を持ち、生き物の世話をすること。

欠席した場合は、講義内容に関するテーマを自ら設定し、レポート（1200字）を提出すること。

| | | |
|--|--------------|-------|
| 授業科目名 | 2単位 (0-2) | 担当教員 |
| 幼児の言葉 (Methods of Language Development) | | 山盛 淳子 |

授業の到達目標及びテーマ

- 知識理解：乳幼児がことばを獲得していく過程について説明できる
保育者の基本的な姿勢や援助のあり方について事例を踏まえて説明できる。
- 思考判断：言葉を豊かにする教材を選択できる
- 関心意欲：ことばの機能を理解しことばを育む環境について関心を持つ。
- 態度：豊かなことばの感性と表現力を身につける

授業の概要：

乳幼児期は言葉獲得の重要な時期であり、ことばは生活の中で獲得される為幼児の生活を
知り、発達の筋道を学ぶことは幼児の発達を保障する保育者として最も肝要である。本授業では
「ことばの発達過程」「生活の中のことば」「思いの伝えあい（互いの関係性）」等を軸に乳幼児
のことばを育てる環境やことばの育ちを助ける保育者の関わりについて理論学習や実践的な
基礎技術について学ぶ。

予習：事前に教科書を読み、授業内容をイメージしておく（特に乳幼児の発達段階）

復習：課題、まとめを読み、内容をより理解し、次の授業と関連づけができるよう努める

授 業 計 画

| | |
|----------------------------------|---------------------------|
| 第 1 回： オリエンテーション 「言葉とは？」講義の概要 | 第 9 回： 幼稚園保育園での言葉の生活 |
| 第 2 回： 言葉をめぐるワークショップ | 第 10 回： 言葉を育てる人的環境 |
| 第 3 回： 言葉の育つ道すじ | 第 11 回： 言葉での関わりに配慮を要する子供達 |
| 第 4 回： 幼稚園教育要領・保育所保育指針領域「言葉」 | 第 12 回： 言葉をめぐる相談と対応 |
| 第 5 回： 乳幼児の発達と言葉① | 第 13 回： 言葉を育てる児童文化と地域文化① |
| 第 6 回： 言葉の前の言葉 | 第 14 回： 言葉を育てる児童文化と地域文化② |
| 第 7 回： 言葉の芽生え | 第 15 回： まとめ |
| 第 8 回： 乳幼児の発達と言葉② | 第 16 回： 定期試験 |

テキスト：保育内容言葉 小田豊著 北大路書房 ・幼稚園教育要領解説・保育所保育指針解説書

評価方法・評価基準：課題提出 期末テスト・授業への参加度、態度による総合評価

| 到達目標等 | 知識・理解 | 思考・判断 | 関心・意欲 | 態度 | 技能・表現 | その他 | 評価割合(%) |
|----------------------|-------|-------|-------|----|-------|-----|---------|
| 成績評価 試験 (期末試験) | ○ | ○ | | ○ | | | 30 |
| 課題、実技、演習への 取り組み | ○ | | ○ | ○ | | | 30 |
| 授業態度 | ○ | | ○ | ○ | | | 15 |
| 受講者の発表 | | | ○ | ○ | | | 10 |
| 演 習 | ○ | | ○ | ○ | | | 15 |
| その他 | | | | | | | |

履修上の注意：提出物は期限厳守、実技は必須・保育科としての自覚に基づき自身が言葉を豊かに話せる様に努める